

令和3年度 第4回

宍粟市教育委員会

# 会 議 録

(要点筆記)

日時 令和3年7月16日 午前9時30分から

場所 宍粟市役所 3階 庁議室

## 第4回（定例）宍粟市教育委員会会議録

### 1 開会・閉会の年月日時及び場所

令和3年7月16日（金） 午前9時30分～午前10時52分  
兵庫県宍粟市山崎町中広瀬133番地6

### 2 会議に出席した者の職氏名

教育委員

中田直人	教育長	片山繁樹	委員
金本一二	委員	飯田さおり	委員
中川まゆみ	委員		

事務局

大谷奈雅子	教育部長	橋本徹	教育部次長
進藤美穂	次長兼教育総務課長	中尾善弘	次長兼こども未来課長
西林文隆	次長兼施設整備課長	谷尻博誉	学校教育課長
水口恵子	社会教育文化財課長	池本雅彦	学校給食センター所長
小河秀義	次長兼まちづくり推進課長	梶原昭一	人権推進課長
西岡公敬	一宮市民局副局長兼まちづくり推進課長	太田雅章	教育総務課副課長

### 3 開会

中田教育長が開会した。

### 4 会議の成立宣言

出席者数5名となり、中田教育長が会議の成立を宣言した。

### 5 会議録署名委員の指名

署名委員は、中田教育長の指名により、次のとおり決定された。

飯田委員

### 6 前回会議録の承認

令和3年度第3回（定例）宍粟市教育委員会会議録の承認に関する件  
前回の定例教育委員会における協議事項、報告事項の会議録について、進藤次長兼教育総務課長が説明し、承認された。

### 7 教育長報告

次の4点について中田教育長が報告した。

#### (1) 第2期社会教育振興計画策定について

令和4年度から令和13年度までの10年を期間とする、第2期社会教育振興計画の策定に向けて、6月26日に、兵庫大学副学長の田端教授をアドバイザーとして、委員15名による第1回策定会議を開催しました。

今後、審議を重ねながら、パブリックコメント等により、市民の皆様からの意見もいただきながら、令和4年3月の策定に向けて手続を進めていきます。

本教育委員会においても、素案がまとまった段階で、委員の皆様にご意見をいただきたいと思っております。

#### (2) 小中学校・幼稚園の夏休みについて

小中学校、幼稚園及びこども園では、7月20日に1学期の終業式を行い21日から8月31日まで夏季休業に入ることになります。

昨年は、コロナ対策の関係で1週間のとても短い夏休みでしたが、今年は例年どおり、児童生徒には、長期の休みを活かして学校では中々体験できないことにチャレンジしたり、楽しい思い出をつくってほしいと思っています。

GIGAスクール構想によるタブレットを1人1台整備しているわけですが、各学校においては、夏休みに一度家庭の持ち帰りといったことも検討しながら、着実な有効活用について準備をしております。

また、教職員の方々にとっては、どうかこの時期に夏季休暇を完全に取得していただいて、しっかりとリフレッシュする機会も持っていただいて、先生方には元気に2学期を迎えていただきたいと思っています。一方で、研修等も積んでいただいて、力量アップとともに、2学期に向けて、心身ともに健康な状態で準備していただきたいと思っています。

#### (3) 緊急事態宣言の解除並びに集団ワクチン接種（64歳以下）の優先接種について

兵庫県の新型コロナウイルス緊急事態措置実施区域の指定解除、その後のまん延防止等重点措置実施区域も、7月11日に解除され、学校施設や社会教育施設、生涯学習センターの利用貸出、また、各種講座等について、緊急事態宣言解除後の6月21日から順次再開して、7月12日からは利用貸出が21時30分まで可能になるなど、おおむね貸館利用や講座等が開催できる状況となっております。

また、64歳以下のワクチン集団接種ですが、基礎疾患を有する方々と並行して実施される、市内の幼稚園、保育所、こども園、小中学校及び給食センターの希望される職員の方々への優先接種が、7月15日に1回目の接種が始まり、8月7日には2回目の接種が完了することになります。今後、教育・保育現場におきまして、これまでの感染症予防対策とともに、今回のワクチン接種により、一層の感染防止が期待されるところです。

#### (4) 工事等の契約関係について

山崎地区の認定こども園の整備では、7月2日、用地造成設計及び開発許可申請等に関する委託業務について、株式会社オオバ神戸営業所と12,650,000円で契約し、秋以降の開発許可、造成工事に向けた準備を進めています。

また、衛生向上に向けた小学校のトイレ改修工事については、6月21日に落札した業者と契約し工事に取りかかっています。また、中学校のトイレ改修についても、今後入札を行い工事を進めていきます。

## 8 協議報告事項

### (1) 宍粟市立学校事務職員の職務に関する規程の廃止について

資料1「宍粟市立学校事務職員の職務に関する規程を廃止する規程」により、谷尻学校教育課長が説明した。

### (2) 宍粟市立学校事務職員の標準的な職務に関する基本要綱の制定について

資料2「宍粟市立学校事務職員の標準的な職務に関する基本要綱」により、谷尻学校教育課長が説明した。

### (3) 千種小中学校一貫教育推進状況について

資料3「千種小中学校一貫教育推進プロジェクト会議設置要綱」等により、谷尻学校教育課長が説明した。

### (4) 数学・理科甲子園ジュニア2021について

資料4「数学・理科甲子園ジュニア2021実施要項」等により、谷尻学校教育課長が説明した。

### (5) 新型コロナウイルス感染防止予防方策に係る中止・延期対象事業について

資料5「新型コロナウイルス感染防止予防方策に係る中止・延期対象事業」により、谷尻学校教育課長が説明した。

### (6) 宍粟市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担額を定める条例施行規則の一部改正について

資料6「宍粟市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担額を定める条例施行規則の一部を改正する規則」等により、中尾次長兼こども未来課長が説明した。

### (7) 学校施設トイレ改修工事の契約概要について

資料7「学校施設トイレ改修工事の契約概要について」により、西林次長兼施設整備課長が説明した。

### (8) 第2期社会教育振興計画策定方針について

資料8「第2期宍粟市社会教育振興計画策定方針」等により、水口社会教育文化財課長が説明した。

### (9) 宍粟市人権教育研究協議会事業計画について

資料9「宍粟市人権教育研究協議会事業計画について」により、水口社会教育文化財課長が説明した。

**(10) 学校給食における異物混入状況及び対策について**

資料10「令和3年度学校給食センター異物混入状況及び対策について（6月分）」により、池本学校給食センター所長が説明した。

**(11) 令和3年度宍粟市スポーツ推進委員について**

資料11「令和3年度宍粟市スポーツ推進委員名簿」により、小河次長兼まちづくり推進課長が説明した。

**(12) カヌー教室の開催について**

資料12「令和3年度少年少女カヌー教室募集チラシ」により、小河次長兼まちづくり推進課長が説明した。

**(13) 人権文化をすすめる市民運動推進月間事業について**

資料13「宍粟市における推進月間の取組」等により、梶原人権推進課長が説明した。

**(14) まほろばの湯・家原遺跡公園の最終報告について**

資料14「一宮温泉まほろばの湯・家原遺跡公園にぎわいづくりと活用について」により、西岡副局長兼まちづくり推進課長が説明した。

**(15) その他**

東京2020パラリンピック宍粟市聖火フェスティバルについて、小河次長兼まちづくり推進課長が別添実施計画により説明した。

令和3年度波賀B&G海洋センターの夏期プール営業について、小河次長兼まちづくり推進課長が口頭により説明した。

**委員の主な意見及び事務局の説明**

(片山委員)

学校事務職員の職務に関する規程を廃止し基本要項を定めることについて、事務の先生方の捉え方として、職務の範囲、職務の量については従来と変わらないのか、それとも新しく変わった部分がある、あるいは内容がはっきりしたので分かりやすい、もしくは余計大変になったと感じているなどの意見は出ているか。

(谷尻学校教育課長)

事務の先生方の捉え方としては、これまで規程にもあったが、その規程以上に先生方が事務の中で進めていかなければならない仕事はあったと思うが、それも含めて実際にやられていることをきちんと明確化して整理をするというところが今回の改定の中にあると思っている。事務の先生方がされている内容をもう一度見直した上できちんと細分化して整理し直したという

ところが今回あると思っており、事務の先生方にとっては、明確化、当然自分たちがこれまでも担ってきた職務が適正であるかということで、きちんと整理されたという捉え方をされているのではないかと考えている。

(金本委員)

千種小中学校一貫教育について、併設型一貫校という文言が出ているが、具体的にどういった形をめざしているのか、また、一宮北小中学校の併設型とどういった違いがあるのか教えていただきたい。

(谷尻学校教育課長)

一宮北小中学校については、愛称として一宮北学園としてスタートしているが、令和4年度からは、千種小中学校についても新たに併設型一貫校としてスタートすることになっている。一貫校については、いわゆる義務教育学校と言われる9年間の系統性を確保した教育課程を編制し、ひとつの学校にしてしまっ、校長先生も一人になり、そこに配属される先生方がすべてに関わるというような形、それから宍粟市の場合はそうではなく、中学校併設型小学校ということで、併設型の小中学校をつくっていこうということにしているが、これについては、千種小学校、千種中学校も存在したまま小中学校を連携させ、教育課程であったり、学校での生徒指導であったり学習指導、そういったものをすべて小中学校で連携していく形で宍粟市は進めていこうとしている。今回、千種小中学校については、併設型の小中一貫教育としてスタートするが、例えば小中学校の教育課程の一貫性であったり、9年間を見通した子ども像、そういったところをまず小中の先生方が一緒になって考え、千種の子どもの成長をめざしていこうということは義務教育学校とまったく変わらない。それぞれが残った中で、二つの学校が一緒に協力して進めていこうということで併設型という形になっている。例えば、併設型になったことで、これまでも千種小中学校では、「千種学」というような、ふるさと学習を丁寧に進められているが、併設型一貫校になっても同じようにきちんと進めていこう、新たに整備し直して、もっとより取組を進めていこうということや、併設型であるので、小学校の先生が中学校に指導に行ったり、中学校の先生が小学校に指導に行ったりすることも可能になる。また、人権教育や同和教育についても、一貫性のあるカリキュラムを小中学校の先生方が一緒になって話し合い、小学校、中学校それぞれ別ではなく、一緒に考えて9年間を見通して進めていくことなど、それぞれの学校の特色を活かしながら進めていけることが併設型小中学校であると考えている。そういったことについて、一宮北学園と千種小中学校は併設型として同じようにやっ、ていこうということで進めている。ただし、千種小中学校については、これまでも、保育所、こども園、小中高といった学校園所の連携といった取組も丁寧に進めておられるので、これまでの取組も継承しながら、そこにまた新たに小中での連携をより教育課程等で強めていこうということで準備を進めている。

(金本委員)

小学校も中学校も今のままで、連携教育をもっともっと強化していった学校になっていくという理解でよいか。

(谷尻学校教育課長)

今の学校園所の連携も残していくということで、小中の部分を強めていこうということで認識いただけたらと思っている。

(金本委員)

一宮北学園の場合は、校舎が同じところにあり行きやすいと思うが、先生方の交流や意識をひとつにしていくという部分では、千種小学校と千種中学校は少し離れており、何か月かに1回は先生方の会議を持つことも大切になってくるのではと思う。千種の小中一貫校については、現在の学校園所の連携教育を見ると先生方はたいへん忙しい中で、さらに加えて多忙になってくるのではと考える。学校間の距離についてのこともあり、十分に調整をとりながら進めていただく必要があると思っている。

(谷尻学校教育課長)

小中一貫教育のスタートにあたっては、多忙になる部分は少なからずあると思っている。その部分については、加配の先生を配置することも考えている。そのことを踏まえて、最初は新しいシステムに先生方が慣れていくためにも大変なところはあると思うが、これが何年か続いていく中で、小学校の先生は、小学校から中学校へ送り出している生徒のことは分かっているが、中学校の先生方が、小学校のうちから関わることで、生徒指導や学習指導など、先生方の負担軽減につながる部分はあると思うので、小中一貫教育については、長く続けていけばいくほど、その効果があると考えている。小中学校の先生方については、小中連携、学校園所の連携ということで大変忙しくされているが、取組を進めていくことで先生方の教育活動が子どもたちにもいい影響として表れるのではないかと考えている。また、小中学校の合同職員会については、共通理解を図れるよう実施していただきたいと思っている。

(金本委員)

もう一点お伺いする。小中一貫教育推進プロジェクトチームの委員名簿を見ると、構成として、元教員の方や教育委員会の方がほとんどとなっている。地域の方々に、千種小中学校がこうなっていくという発信を考えると、他に地域に発信しやすい方が入っておられるかということについてお聞きしたい。

(谷尻学校教育課長)

委員については、元先生の方もたくさんおられるが、これは千種小中学校運営協議会、たたら里学校運営協議会のメンバーを基本として編成されている。地域に発信していくということについては、たたら里学園通信や、小中一貫教育にかかる学校だよりを地域に配布するなど、地域の方々にもよく理解していただけるよう進めていくということも確認しているので、周知については、あらためて学校に依頼していきたいと考えている。

(中田教育長)

この制度がスタートしたのは平成27年で、中学校に入ってからギャップをできるだけ少なくしよう、小学6年生から中学1年生への大きな段差があるようなものではなく、少しスロープのような、なだらかに小学校から中学校へ移行していこうという、いわゆる連携があったと思うが、そこから栄栗市では、連携教育から一貫教育へともう1段教育の新たな制度に移行していこうとしている。その根本は、小学校と中学校がめざす子ども像を共有しようということが一つ、また、二つ目として、6年、3年という9か年にわたる教育課程を連続させようということが一貫教育としての必須条件となる。千種は小中学校の距離が離れているということで、一宮北学園と同じ内容で取り組むことは難しいと考える。その中で、それぞれの学校の特色や独自性が活かされて、千種ならではの小中一貫教育が展開されるものと思っている。ま

た、取組を進めていく上で、先生方の多忙感の解消というものが非常に大きなものになると思っている。特に、小学校と中学校がしっかりと共通理解したり、合意形成を図るための時間の確保など、小中一貫教育の導入に向けた機能的な会議のあり方、効果的な教育活動のあり方など、先生方の負担感や多忙感というものが大きくなると、中々制度もうまくいかないという課題についてご意見もいただいた。また、地域の方々の参画については、宍粟市では、小中一貫教育とコミュニティスクールを両輪として取り組んでいこうとしている。コミュニティスクールの中で、小中一貫教育の進捗状況を共有していただきながら、地域の方々にも、小中一貫教育の進捗状況が情報として発信され、理解いただいたり、またご意見もいただいたりしながら、これまで大事にしてこられた学校への地域の方々の思いが小中一貫教育にも反映されるよう、コミュニティスクールとの両輪でこの取組が円滑に進められることを教育委員会としても支援したいと思う。

(金本委員)

学校給食の件について、異物混入の報告とは別に、食育の上で、学校でのトピックスについても、別の機会でご報告いただけたらと思う。

(池本学校給食センター所長)

特色や取組について、あらためて報告させていただく。

(片山委員)

家原遺跡公園再構築検討委員会について、温泉については9月から試運転を行うということで土日どれぐらいの人が来られるかという事も興味深いですが、昨日の新聞にかぶとむしドームの開園ということが掲載されていた。温泉客とかぶと虫ドームへの来場者数が一つの目安として、委員会でさらに検討されると思うが、新聞記事を見ていると行ってみたいと感じたので、取組について期待している。

(西岡副局長兼まちづくり推進課長)

かぶとむしドームについては、地元の方が運営されており、市の北部の活性化について委員会の中でも積極的に発言いただいている。今後、指定管理者も公募して決定していくことになるが、盛り上げていけるよう、協議を重ねていきたいと思っている。

(中田教育長)

カヌー教室について、子どもたちの応募がたくさんあったということで、子どもたちの興味関心、体験してみたいという高まりの背景をお聞きしたい。

(小河次長兼まちづくり推進課長)

音水湖でのカヌーの取組状況というものが、しそチャンネルなどを通じて浸透してきたのではと考えている。また、令和元年度は豪雨により、また令和2年度はコロナ禍でカヌー教室が実施できなかった。今年は少し楽しめる夏休みということで、申込の殺到につながったのではと思っている。宍粟市としても、来年のワールドマスターズゲームの中でカヌーポロ大会が音水湖で開催されるので、PRも含めて子どもたちに楽しんでいただけるようなこともいろいろと考えていきたいと思っている。

## 9 次回会議の招集について

令和3年8月17日(火)午前9時30分から、令和3年度第5回宍粟市教育委員会を開催する

とした。

## 11 閉会

片山委員が閉会した。

以上 午前 10 時 52 分終了